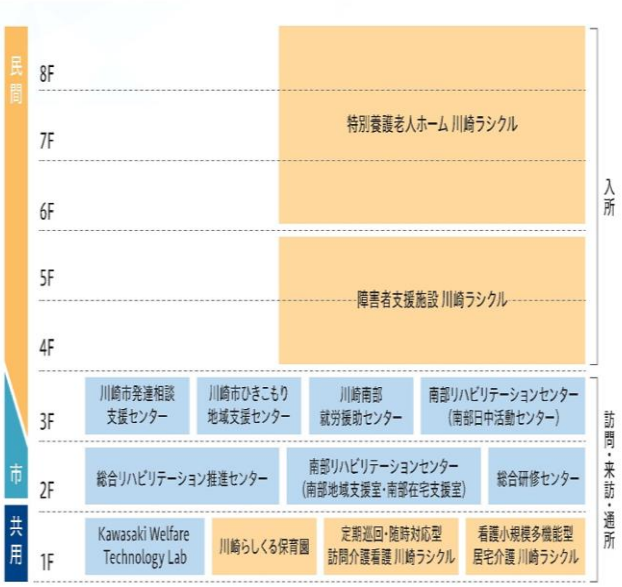
川崎市複合福祉センター「ふくふく」を視察
住み慣れた場所で暮らし続けることが出来る施設

7月7日（木）川崎地域連合の内部組織である共働部会の取り組みとして、川崎市複合福祉センター『ふくふく』の視察をおこないしました。役員 23 名と自治研センター4 名が参加しました。

今回の視察については、共働部会の運動方針である『育児・介護・看護・治療などと仕事の両立が可能な社会を実現するために自分たちの見聞を広げる取り組み』として実施しました。

昨年に整備された『ふくふく』は福祉・幸福・福寿などの「福」が持つ優しい響きからネーミングされました。また、「高齢者や障害者の在宅生活支援の推進」を目的とした市と社会福祉法人による官民複合施設と説明がありました。



上図のように精神保健福祉センターと障害者更生相談所を統合再編した「総合リハビリテーション推進センター」の他、南部リハビリテーションセンター、ひきこもり地域支援センター等の施設が運営されています。

渡部議長からは「働く仲間の中には、介護を理由に年間約 10 万人が退職されている。仕事との両立は大変なことだと思うが、この視察で少しでも理解を深めていきたい」と挨拶しました。

総合リハビリテーション推進センターの総務・判定課より概要の説明を受けました。

1F川崎ウェルテックは、福祉施設の居住を想定した「模擬環境ラボ」として、福祉製品などを開発する施設です。

『高齢者や障がい者、障がい児等が可能な限り、住み慣れた場所で暮らし続けることが出来るようにしたい』をコンセプトに整備された施設は、さらに保育園や最先端開発まで兼ね備えていることに驚きました。ここまでの支援機能を持つ複合施設は、全国でも例がないとのことでした。